Yosio KOBAYASI*: ***Copelandia papilionacea*, a hallucinogenic mushroom**

小林義雄*: 幻覚を起す茸 *Copelandia papilionacea*

In April, 1983, I was given several immersed specimens of mushroom from Mr. Toru Yano through Mr. Wakaura. According to them, this mushroom was collected by Mr. Terumoto on 11-12th March, at Legian Beach near Denpasar of south peninsula of Bali Island, Indonesia.

This has the hallucinogenic activity like Mexican species of the genus *Psilocybe*. Eating the cooked mushroom, the people fall into the symptoms as laughing and hallucinogenesis. This symptom seems to be different from that of the species of *Psilocybe*. In a restaurant named Midnight Oil Restaurant, this is served to the guets as soup or omelet. The foreign guests call it "the magic mushroom".

Copelandia papilionacea (Bull.) Bres., in Hedwigia 53: 51 (1913) et Iconographia Mycologica pl. 897 (1933).

Cap dilated campanulate, 1-2.5 cm in diameter, white, margin radially rimose. Gills adnate ventricose, cinereous brown. Stalk slender cylindric, solid, fibrose, white, 5-6 cm×1.5-2.5 mm, destitute of peridium, composed of hyphae 6-13 μm in diameter. Pleurocystidia nemerous, ventricose-fusiform, pale ochraceous, 37-55×15-16 μm. Basidia 15-17×4-7 μm, with 4 or 2 sterigmata. Basidiospores lemon-shaped, truncate at base, fuscous, not black, 11-14×7-10 μm.

Hab. Growing on sandy Kuda Beach of Bali Island, Indonesia. Collected by Terumoto, March 1983.

* * * *

Copelandia と *Inocybe* とは前者が Coprinaceae に，後者が Cortinariaceae に属し，大分縁が遠い。しかし，両属に共通の特徴もある。即ち，cystidia があってその先端に結晶をつけていることである。また，今回の報告のように幻覚を起す物質を含んでいる。後者には傘の表面に放射状の繊維があり，放射状に裂け易い点は前者と異なる。前者の胞子は黒色であると報告されているが，私の観察では灰褐色であった。

* National Science Museum, Tokyo. 国立科学博物館.

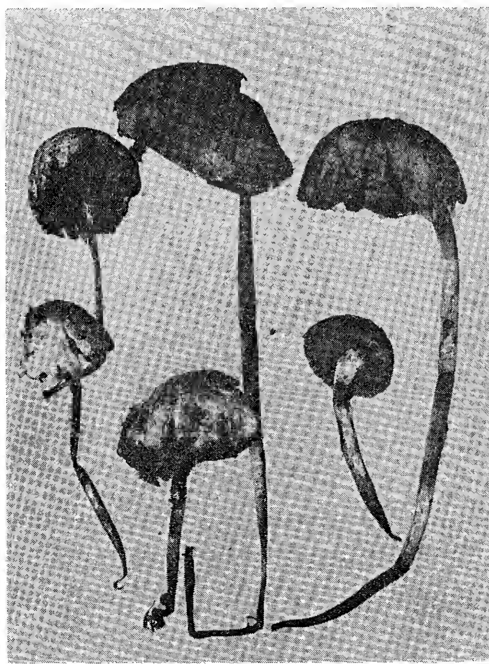


Fig. 1. *Copelandia papilionacea.* Fruitbodies.

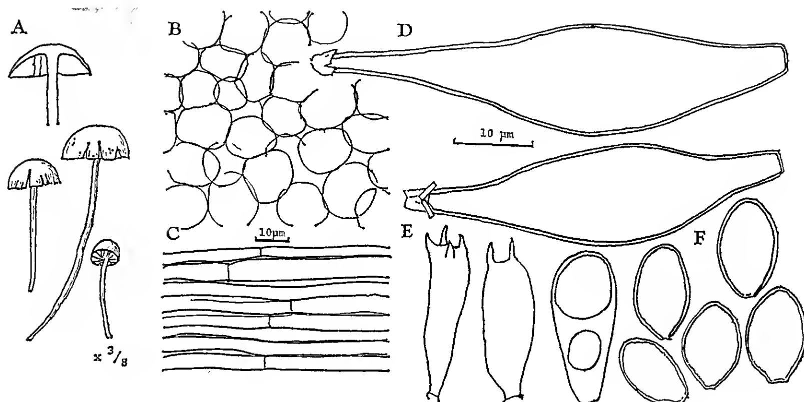


Fig. 2. *Copelandia papilionacea.* A. Fruitbodies. B. Epidermal tissue of pileus. C. Tissue of stipe. D. Pleurocystidia. E. Basidia. F. Basidiospores.

幻覚菌類に就いては，メキシコ産の多くのシビレタケ属の種類やニューギニア産のアワタケ属の種類の研究で既に発見は終ったかのように私は思っていた。然るに今回，この仲間の菌の研究がなされていなかったバリ島で，しかもレストランで幻覚菌が料理されていることを知ったのは大変な驚きである。問題の菌は *Copelandia* 属に所属し，既に幻覚症状を呈することは知られていた。ここに茸を生のままに私の手元に届けて下さった矢部，若浦，照本の三氏に厚く御礼申し上げる。

□中国科学院植物研究所（编）：**中国高等植物图鉴，补编** No. 1 (Iconographia Cormophytorum Sinicorum, Supplementum I) 806 pp. 1982. 科学出版社，北京．5.30 元．1972年に本篇の第一巻が出版されてから十年以上の歳月が過ぎた。この間に中国分類学界の視野は急速に拡がり，今日の隆盛をみたことは御存知の通りである。中国科学院植物研究所では1977年 3 月から，離弁花類を総覧する意味で补編 2 冊の編集に着手し，昨年にはほぼ完成したという。これはその第一部である。コショウ科からはじめて28科を経てフウチョウソウ科までを集め，科の特徴，属の分類表を詳しく示している。本篇では図が主であったのを，これは検索表を主にしているが，加うるに本編で図を載せなかったものは出来る限りの図を載せ，これが 389 図に及んでいる。*Lithocarpus*（柯属），*Arenaria*（天心菜属またの名を蚤綴属というのは日本字から来たらしい），*Aconitum*（烏头属）など驚くばかりであり，*Asarum*（細辛属）の如きには 21 も図が載っていてこれまた一驚である。中国は世界の植物の一大中心の一つに違いないから，ふえるのは当然ともいえる。これでますます中国の植物が見易く，引き易くなったことは喜ぶべきであろう。（前川文夫）

□Hui-Lin Li: **Contributions to botany** Studies in plant geography, phylogeny and evolution, ethnobotany and dendrological and horticultural botany（李惠林：植物学論叢）527 pp. 現代関係出版社，台北，1982. $24.50. Flora of Taiwan の編著者の 1 人，前台湾大学教授李惠林博士70歳記念の自著論文集。全篇英文論文よりなる。論文目録によれば，李博士は1932-81年に269篇の論文を発表しておられるが，中から42篇が選ばれ，I．植物地理学，II．植物系統・進化学，III．民族植物学と栽培植物の起源，IV．樹木学と園芸学の 4 分野に分類されて再録されている。I では東アジアと北アメリカ東部フロラの関連についてまとめた論文など13篇，II ではヒノキ科の再分類，被子植物のアルカロイド分布と系統的関係など 9 篇，III ではアサの民族植物学など 8 篇，IV ではカツラ，イチョウなどを植物学的あるいは園芸学的に解説した12篇が収められている。通観して，中国，台湾，北アメリカの植物地理学に主点があり，それは著者の経歴と深い関連があるように思われる。李博士の長い間の研究成果が上手に編集されていて，一本にまとめられており，役に立つ。印刷・製本もよくできている。（大橋広好）